

教科	数学	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
0章 算数から数学へ	3	<ul style="list-style-type: none"> 九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。 自然数をいくつかの数の積で表すことよさや素因数分解の意味を理解する。 素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然数、素数、素因数分解の意味を理解している。 素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見だし表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。
1章 数の世界を広げよう 【正負の数】	25	<ul style="list-style-type: none"> 反対の性質をもつ量や基準とのちがいを、正負の数を用いて表すことができる。 絶対値の意味を理解し、絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。 正負の数の加法の計算ができる。 正負の数の減法の意味を理解する。 正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみることができる。 正負の数の加法と減法の混じった式の計算ができる。 正負の数の乗法の意味を理解し、東西の移動をもとにして考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正負の数の必要性和意味を具体的な場面と結び付けて理解している。 正負の数の大小関係や絶対値の意味を理解している。 正負の数の四則計算をすることができる。 具体的な場面で正負の数を用いて表したり処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数で学習した数の四則計算と関連づけて、正負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。 正負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正負の数の必要性和意味を考えようとしている。 正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

<p>2章 数学のことばを身につけよう 【文字と式】</p>	<p>18</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いることの必要性和意味を理解し、具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。 ・項と係数の意味を理解し、文字の部分が同じ項を1つの項にまとめることができる。 ・1次式の加法や減法の計算ができる。 ・1次式と数の乗法の計算ができる。 ・いろいろな整数を文字を用いた式で表したり、式が表す数を読み取ったりすることができる。 ・等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が表す数量の関係を読み取ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いることの必要性和意味を理解している。 ・文字を用いた式における積や商の表し方を知っている。 ・文字を用いた式の文字に数を代入して、その式の値を求めることができる。 ・簡単な1次式の計算をすることができる。 ・数量の関係や法則などを、文字を用いた式に表すことができることを理解している。 ・数量の関係や法則などを、文字を用いた式を用いて表したり、読み取ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面と関連づけて、1次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。 ・文字を用いた式を活用して、具体的な事象を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。 ・文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
------------------------------------	-----------	--	--	---	--

<p>3章 未知の数の求め方を考えよう【方程式】</p>	<p>14</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができる。 ・等式の性質を使って、方程式を解くことができる。 ・移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。 かっこをふくむ方程式や、係数に小数をふくむ方程式を解くことができる。 ・個数と代金に関する問題を、方程式を利用して解決することができる。 過不足に関する問題を、方程式を利用して解決することができる。 ・速さ・時間・道のりに関する問題を、方程式を利用して解決することができる。また、求めた解が問題に適しているかどうかを考え、説明することができる。 ・比例式の性質を理解し、その性質を利用して文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式の必要性と意味を理解している。 ・方程式の解や等式の性質、移項の意味を理解している。 ・等式の性質の意味を理解し、等式の性質を用いて方程式を解くことができる。 ・移項の考えを用いて方程式を解くことができる。 ・簡単な1次方程式、比例式を解くことができる。 ・事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式をつくることができる。 ・1次方程式を用いて具体的な場面の問題解決を行うときの、解の吟味の意味と必要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・等式の性質をもとにして、1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・方程式において、移項できる理由を等式の性質をもとにして考察し表現することができる。 ・具体的な場面の問題において、1次方程式を活用し、問題を解決することができる。 ・具体的な場面の問題において、解を吟味して解答としてよいことを判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式の必要性と意味を考えようとしている。 ・正負の数や文字を使った式で学んだことを生かして、方程式を効率的に解く方法を検討している。 ・方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
------------------------------	-----------	--	--	---	--

<p>4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう【比例と反比例】</p>	<p>22</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の意味及び変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 ・身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ・比例の意味を理解し、比例の関係を式に表すことができる。また、反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。 ・yがxに比例するとき、1組のx, yの値から、比例の式を求めることができる。 ・座標の意味や点の位置の表し方を理解し、点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。 ・比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、比例のグラフから式を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数関係の意味を理解している。 ・比例、反比例について理解している。 ・比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数関係の意味や比例、反比例について考えようとしている。 ・比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
-------------------------------------	-----------	---	---	---	--

<p>5章 平面図形の見方をひろげよう 【平面図形】</p>	<p>17</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行移動、回転移動、対称移動の意味とその性質を理解する。 ・作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。 ・基本的な作図の方法を考えるために、交わる2つの円の性質を理解する。 ・垂線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ・線分の垂直二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ・角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。また、直線上の点を通り、その直線に垂直な直線を作図する方法を考え、説明することができる。 ・基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平行移動、対称移動及び回転移動について理解している。 ・平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ・角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解している。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の移動に着目し、2つの合同な図形の関係について考察し表現することができる。 ・線対称な図形の性質をもとにして、基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 ・図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を考えようとしている。 ・平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
------------------------------------	---	--	---	--

<p>6章 立体の見方をひろげよう 【空間図形】</p>	<p>18</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面体の意味を理解する。また、角錐や円錐の意味とそれらの特徴を理解する。 ・空間内にある平面と平面、平面と直線、直線と直線の位置関係を理解する。 ・空間内にある直線と平面の垂直、平面と平面のつくる角を理解する。 角柱や円柱、円錐、球などを、平面図形の移動によってできた立体とみることができる。 ・投影図の意味を理解し、立体の投影図から、その立体を読み取ったり、投影図に立体のどの部分の実際の長さがあらわれるかを考え、説明したりすることができる。 角柱や円柱の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間における直線や平面の位置関係を理解している。 ・立体図形の展開図や投影図について理解している。 ・柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。 ・空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだすことができる。 ・立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間図形の性質や関係を捉えることの必要性や意味を考えようとしている。 ・空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
----------------------------------	--	---	--	--

<p>7章 データを活用して判断しよう 【データの分析と活用】</p>	<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・データを度数分布表やヒストグラムに表し, 分布の特徴を読み取り, 説明することができる。 ・相対度数の必要性和意味を理解し, 2つのデータを相対度数の折れ線に表して, 分布を比較し, 説明することができる。 ・代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り, 説明することができる。 ・目的に応じてデータを収集して分析し, そのデータの分布の傾向を読み取り, 批判的に考察し判断することができる。 ・不確定な事象の起こりやすさを, その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え, 説明することができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解する。 ・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして, 不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り, 説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。 ・累積度数, 累積相対度数の必要性和意味を理解している。 ・代表値や範囲の必要性和意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じてデータを収集して分析し, そのデータの分布の傾向を読み取り, 批判的に考察し判断することができる。 ・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして, 不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒストグラムや相対度数の必要性和意味を考えようとしている。 ・ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり, 多面的に捉え考えようとしていたりしている。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
---	-----------	--	--	--	--

令和8年度 評価規準

学校名:江戸川区立松江第五中学校

予備時間	13				
------	----	--	--	--	--

教科	数学	学年	第3学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 文字式を使って説明しよう [多項式]	18	<p>○単項式と多項式の乗法および多項式を単項式でわる除法の計算をすることができる。</p> <p>○1次式の乗法の計算および公式を用いる式の展開や因数分解をすることができる。</p> <p>○既に学習した計算の方法と関連づけて、式の展開や因数分解をする方法を考察し表現することができる。</p> <p>○文字を使った式で数量および数量の関係をとらえ説明することができる。</p> <p>○文字を使った式のよさを実感して粘り強く考え、多項式について学んだことを生活や学習にいかそうとする。</p>	<p>○展開と因数分解及び因数の意味を理解している。</p> <p>○単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式でわる除法の計算ができる。</p> <p>○簡単な一次式の乗法の計算及び乗法公式や因数分解の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解ができる。</p> <p>○数量及び数量の関係を、文字を用いた式で表すことができる。</p> <p>○乗法公式や因数分解の公式を活用し、目的に応じて式を変形することができる。</p> <p>○文字を用いた式の意味を読み取ることができる。</p>	<p>○単項式と多項式の乗法・除法の計算の方法を、具体的な数の計算や既習の文字を用いた式の計算と関連付けて考えることができる。</p> <p>○式の展開や因数分解の仕方を、式を一つの文字に置き換えたり、交換、結合や分配法則などを用いたりして、既習の計算に帰着させて考えることができる。</p> <p>○数や図形の性質などが成り立つことを、数量及び数量の関係を捉え、方針を明らかにして、文字を用いた式で説明することができる。</p> <p>○説明に用いた式の変形を振り返り、数や図形についての新たな性質などを読み取ることができる。</p>	<p>○単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式でわる除法に関心を持ち、それらの計算をしようとしている。</p> <p>○一次式の乗法、式の展開と因数分解に関心を持ち、それらの計算をしようとしている。</p> <p>○文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。</p>
2章 数の世界をさらにひろげよう [平方根]	16	<p>○数の平方根の必要性和意味を理解し、数の平方根を含む簡単な式の計算をすることができる。</p> <p>○具体的な場面で数の平方根を使って表したり処理することができる。</p> <p>○既に学習した計算の方法と関連づけて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現することができたり、数の平方根を具体的な場面で使ったりすることができる。</p> <p>○数の平方根のよさを実感して粘り強く考え、数の平方根について学んだことを生活や学習にいかそうとする。</p>	<p>○数の平方根の必要性和意味を理解している。</p> <p>○有理数と無理数の意味を理解している。</p> <p>・数の平方根を数直線上に表したり、大小関係を不等号を用いて表したりすることができる。</p> <p>○平方根を含む式の四則計算をすることができる。</p> <p>○素数、因数の意味を理解して、素因数分解をすることができる。</p> <p>○数の平方根を用いて、身の回りの様々な事象を表すことができる。</p>	<p>○正方形の面積から、その正方形の1辺の長さがどのような数で表されるのかを考えることができる。</p> <p>○平方根の近似値を求める方法を考えることができる。</p> <p>○数の平方根を含む式の計算を、既習の計算と関連付けて考えることができる。</p> <p>○正の数の平方根を用いて表したり処理したりした結果を基にして、具体的な場面で数量やその関係について考えることができる。</p>	<p>○数の平方根に関心を持ち、その必要性和意味を考えたり、数の平方根を用いて、身の回りの様々な事象を表したり、その近似値を求めたりしようとしている。</p> <p>○数の平方根を含む式の四則計算に関心を持ち、その意味や計算の仕方を考えたり、計算したりしようとしている。</p> <p>○平方根を用いることに関心を持ち、具体的な場面で数量を表したり処理したりしようとしている。</p>

<p>3章 方程式を利用して問題を解決しよう [2次方程式]</p>	<p>18</p>	<p>○2次方程式の必要性和意味およびその解の意味を理解し、因数分解したり平方の形に変形したりして2次方程式を解くことができる。 ○解の公式を使って2次方程式を解くことができる。 ○因数分解や平方根の考えをもとにして、2次方程式を解く方法を考察し表現することができたり、2次方程式を具体的な場面で使ったりすることができる。 ○2次方程式のよさを実感して粘り強く考え、2次方程式について学んだことを学習にいかそうとする。</p>	<p>○二次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。 ○二次方程式を活用して問題を解決する手順を理解している。 ○二次方程式に数を代入して、その数が解であるかどうかを確かめることができる。 ○因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くことができる。 ○解の公式を用いて二次方程式を解くことができる。 ○問題の中の数量やその関係を文字を用いた式で表し、それを基にしてつくった二次方程式を解くことができる。</p>	<p>○二次方程式を変数が満たすべき条件と捉え、条件が成り立つ変数の値を求める方法を考えることができる。 ○因数分解や平方の形に変形することを基にして、二次方程式の解き方を考えることができる。 ○係数が数で表されている具体的な二次方程式を平方の形に変形する過程と比較しながら、二次方程式の解の公式の導き方を考えることができる。</p>	<p>○二次方程式とその解に関心をもち、その必要性和意味を考えたり、様々な数を代入するなどして自分なりの方法で解を求めたりしようとしている。 ○二次方程式を解くことに関心をもち、因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解こうとしている。 ○二次方程式の解の公式に関心をもち、その導き方を考えたり、それを用いて二次方程式を解いたりしようとしている。</p>
<p>4章 関数の世界をひろげよう [関数$y=ax^2$]</p>	<p>17</p>	<p>○事象の中には関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知り、いろいろな事象の中に関数関係があることを理解する。 ○関数 $y=ax^2$ としてとらえられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現することができる。 ○関数 $y=ax^2$ を使って具体的な事象をとらえ、考察することができる。 ○関数 $y=ax^2$ のよさを実感して粘り強く考え、関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習にいかそうとする。</p>	<p>○2乗に比例することの意味を理解している。 ○具体的な事象の中には、関数 $y=ax^2$ とみなすことで変化や対応の様子について調べたり、予測したりできるものがあることを理解している。 ○関数 $y=ax^2$ の関係を式で表すことができる。 ○関数 $y=ax^2$ の関係を表、式、グラフで表すことができる。 ○関数 $y=ax^2$ の変化の割合を求めることができる。 ○関数 $y=ax^2$ の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 ○具体的な事象の中から見出した関数関係を、表やグラフなどで表すことができる。</p>	<p>○具体的な事象の中にある二つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量を見いだすことができる。 ○関数 $y=ax^2$ の特徴を、表、式、グラフを相互に関連付けるなどして見いだすことができる。 ○具体的な事象から取り出した二つの数量の関数が関数 $y=ax^2$ であるかどうかを判断し、その変化や対応の特徴を捉え、説明することができる。 ○具体的な事象の中から取り出した二つの数量の関係を、理想化したり単純化したりして関数 $y=ax^2$ とみなし、変化や対応の様子を調べたり、予測したりすることができる。</p>	<p>○関数 $y=ax^2$ に関心をもち、具体的な事象の中から関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量を見いだしたり、その関係を式で表したりしようとしている。 ○関数 $y=ax^2$ の特徴に関心をもち、表、式、グラフを用いて考えようとしている。 ○関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え説明することに関心をもち、問題の解決に生かそうとしている。 ○いろいろな事象と関数に関心をもち、表やグラフなどで表したり、その特徴を考えたりしようとしている。</p>

<p>5章 形に着目して図形の性質を調べよう [相似な図形]</p>	<p>23</p>	<p>○平面図形の意味および三角形の相似条件について理解する。 ○基本的な立体の相似の意味および相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解する。 ○三角形の相似条件などをもとにして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ○平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる。また、相似な図形の性質を具体的な場面で使うことができる。 ○相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、図形の相似について学んだことを生活や学習にいかそうとする。</p>	<p>○相似の意味を理解している。 ○相似の記号を理解している。 ○三角形の相似条件を用いて証明をすることができる。 ○平行線と線分の比についての性質を用い、線分の長さなどを求めることができる。 ・相似の考えを用いて、直接測定できない距離や高さなどを求めることができる。 ・相似な平面図形の相似比と面積比の関係を利用して平面図形の面積を求めることができる。 ・相似な立体の相似比と表面積の比、体積の比を利用して、立体の表面積や体積を求めることができる。</p>	<p>○ある図形を拡大または縮小した図形をかいて、相似な図形の性質を考察することができる。 ○平行線と線分の比についての性質を、平行線の性質や三角形の相似条件を用いて考察し、証明することができる。 ○相似な平面図形や立体について、相似比と面積比、体積比の関係を、図形のしきつめや、具体的な相似な図形などを用いて考察することができる。 ○立体の相似について、平面図形の相似と関連づけて考察することができる。</p>	<p>○写真や設計図など身の回りにある拡大図や縮図に関心をもち、それらをかいたり、相似な図形の性質を考察したりしようとする。 ○平行線と線分の比に関心をもち、観察、操作や実験を通して、平行線の性質や三角形の相似条件を用いて調べようとする。 ○相似の考えを用いて、具体的な事象を考察しようとする。 ○相似な平面図形の相似比と面積比の関係に関心をもち、その関係を図形のしきつめなどを利用して調べようとする。 ○立体の相似について、平面図形の相似と関連づけて調べようとする。</p>
<p>6章 円の性質を見つけて証明しよう [円]</p>	<p>10</p>	<p>○円周角と中心角の関係の意味を理解し、それを証明することができる。 ○円周角と中心角の関係を見いだすことができたり、円周角と中心角の関係を具体的な場面で使ったりすることができる。 ○円周角と中心角の関係のよさを実感して粘り強く考え、円周角と中心角の関係について学んだことを生活や学習にいかそうとする。</p>	<p>○円周角の意味、円周角と中心角の関係及び同じ弧に対する円周角の性質の意味を理解している。 ○円周角と中心角の関係や、同じ弧に対する円周角の性質などを記号を用いて表したり、その意味を読み取ったりすることができる。 ○円周角と中心角の関係を用いて、角の大きさを求めることができる。 ○円の外側にある1点から円に接線をひく作図や、長方形を使って円の中心を求めることなどができる。</p>	<p>○円周角と中心角の関係や、同じ弧に対する円周角の性質を見いだすことができる。 ○円周角と中心角の関係の証明を読み、どのような図形の性質が用いられているのかを考察することができる。 ○与えられた図形の中に円を見いだしたり、日常生活の場面で対象を理想化や単純化することで円とみなしたりして、円周角と中心角の関係をを用いることで図形の性質などを考えることができる。</p>	<p>○円周角と中心角に関心をもち、それらの関係や性質を見いだしたり、その証明にどのような図形の性質が用いられているのかを考えたりしようとしている。 ○円周角と中心角の関係をを用いて具体的な事象を捉えることに関心をもち、問題の解決に生かそうとしている。</p>

令和8年度 評価規準

学校名: 江戸川区立松江第五中学校

<p>7章 三平方の定理を活用しよう [三平方の定理]</p>	<p>15</p>	<p>○三平方の定理の意味を理解し、それを証明することができる。 ○三平方の定理を具体的な場面で使ったりすることができる。 ○三平方の定理のよさを実感して粘り強く考え、三平方の定理について学んだことを生活や学習にいかそうとする。</p>	<p>○三平方の定理の意味を理解している。 ○平面図形や空間図形の計量をしたり、直角をつくったりするなど、三平方の定理やその逆が用いられる場面を理解している。 ○三平方の定理を用いて、直角三角形の辺の長さなどを求めることができる。 ○三平方の定理の逆を用いて、ある三角形が直角三角形であるかどうかを見分けることができる。 ○座標平面における2点間の距離や直方体の対角線の長さ、円錐の高さなどを求めることができる。</p>	<p>○直角三角形の3辺の長さの間に成り立つ関係に着目し、三平方の定理を見いだすことができる。 ○三平方の定理の証明を読み、どのような図形の性質や面積の関係が用いられているのかを考えることができる。 ○与えられた図形の中に直角三角形を見いだしたり、日常生活の場面で対象を理想化や単純化することで直角三角形とみなしたりして、三平方の定理を用いることで図形の性質などを考えることができる。</p>	<p>○直角三角形の3辺の長さに関心を持ち、それらの間に成り立つ関係を見いだしたり、その証明にどのような図形の性質や面積の関係が用いられているのかを考えたりしようとしている。 ○三平方の定理を用いて具体的な事象を捉えることに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。</p>
<p>8章 集団全体の傾向を推測しよう [標本調査]</p>	<p>6</p>	<p>○標本調査の必要性和意味を理解したり、コンピュータなどの情報手段を使うなどして無作為に標本を取り出し、整理したりすることができる。 ○標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現することができたり、簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができたりする。 ○標本調査のよさを実感して粘り強く考え、標本調査について学んだことを生活や学習にいかそうとする。</p>	<p>○標本調査や全数調査の必要性和意味を理解している。 ○無作為に標本を抽出し、整理することができる。 ○標本調査を行い、問題を解決することができる。</p>	<p>○母集団から偏りなく標本を抽出する方法について考えることができる。 ○整理した標本を基にして、母集団の傾向を推定することができる。 ○問題を解決するために、標本調査を行い、母集団の傾向を捉え説明することができる。</p>	<p>○標本調査に関心を持ち、その必要性和意味を考えたり、母集団から偏りなく標本を抽出したり、母集団の傾向を推定したりしようとしている。 ○標本調査を行い、母集団の傾向を捉え説明することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。</p>
<p>予備時間</p>	<p>17</p>				

教科	数学	学年	第2学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 文字式を使って説明しよう [式の計算]	15	<p>○身のまわりの問題を、具体的な数の計算をもとに考え、文字を用いて一般的に表す必要性を理解する。</p> <p>○単項式と多項式、次数の意味を理解する。</p> <p>○同類項の意味を理解し、同類項をまとめる計算や、多項式の加法や減法の計算ができる。</p> <p>○多項式と数の乗法や除法の計算ができる。</p> <p>○多項式についてのいろいろな計算ができる。</p> <p>○単項式どうしの乗法や除法の計算ができる。</p> <p>○単項式どうしの乗法と除法の混じった計算ができる。また、式の値をくふうして求めることができる。</p> <p>○具体的な数の性質をもとに数の性質を見だし、その性質が成り立つことを、文字を使って一般的に説明できることを理解する。</p> <p>○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。</p> <p>○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。</p> <p>○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。</p> <p>○目的に応じて等式を変形することの必要性を理解し、等式を変形して、ある文字について解くことができる。</p>	<p>○文字を使うと、数量を一般的に表すことができることを理解している。</p> <p>○単項式と多項式、次数の意味を理解している。</p> <p>○同類項の意味を理解し、同類項をまとめる計算ができる。</p> <p>○多項式の加法や減法の計算方法を理解し、計算ができる。</p> <p>○多項式と数の乗法や除法の計算方法を理解し、計算ができる。</p> <p>○多項式についてのいろいろな計算ができる。</p> <p>○単項式どうしの乗法や除法の計算方法を理解し、計算ができる。</p> <p>○単項式どうしの乗法と除法の混じった計算ができる。</p> <p>○式の値をくふうして求めることができる。</p> <p>○文字を使うと、数の性質を一般的に説明することができることを理解している。</p> <p>○文字を使って数量を表したり、説明することがならに合わせて文字式を変形したりすることができる。</p> <p>○文字を使って数量を表したり、説明することがならに合わせて文字式を変形したりすることができる。</p> <p>○文字を使って数量を表したり、説明することがならに合わせて文字式を変形したりすることができる。</p> <p>○目的に応じて等式を変形することの必要性を理解している。</p> <p>○等式を変形して、ある文字について解くことができる。</p>	<p>○身のまわりの問題を、具体的な数の計算をもとに考え、説明することができる。</p> <p>○既習の計算方法と関連付けて、2つの文字をふくむ同類項をまとめる計算を考え、説明することができる。</p> <p>○既習の計算方法と関連付けて、2つの文字をふくむ多項式と数の乗法や除法の計算を考え、説明することができる。</p> <p>○単項式の乗法や除法の計算方法を、面積図を用いて考え、説明することができる。</p> <p>○式の値をくふうして求める方法を考え、説明することができる。</p> <p>○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。</p> <p>○文字を使った説明を読んで新たな性質を見いだしたり、問題の条件を変えて統合的・発展的に考え説明したりすることができる。</p> <p>○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。</p> <p>○問題の条件を変えて統合的・発展的に考え、説明することができる。</p> <p>○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。</p> <p>○予想したことがらが正しくない理由を説明することができる。</p>	<p>○文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。</p> <p>○既習の計算方法と関連付けて、多項式の計算方法を考えようとしている。</p> <p>○単項式の乗法や除法の意味を考えようとしている。</p> <p>○式の値をくふうして求める方法を考えようとしている。</p> <p>○文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>○文字を使った式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p> <p>○文字式を活用した問題解決の過程を振り返って、検討しようとしている。</p> <p>○目的に応じて等式を変形することの必要性を考えようとしている。</p>

<p>2章 方程式を利用して問題を解決しよう [連立方程式]</p>	<p>12</p>	<p>○求めたい数量が2つある問題を、既習の1元1次方程式などを活用して解決することができる。 ○2元1次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を理解する。 ○連立方程式では、1つの文字を消去して1次方程式をつくれれば解けることを理解する。 ○加減法を理解し、それをを用いて連立方程式を解くことができる。 ○代入法を理解し、それをを用いて連立方程式を解くことができる。 ○かっこをふくむ連立方程式や、係数に小数や分数をふくむ連立方程式を解くことができる。 ○$A=B=C$の形をした連立方程式を解くことができる。</p> <p>○具体的な問題を、連立方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。 ○個数と代金に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。 ○速さ・時間・道のりに関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。 ○割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。</p>	<p>○2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ○連立方程式とその解の意味を理解している。 ○連立方程式では、1つの文字を消去して1次方程式をつくれれば解けることを理解している。 ○文字の係数の絶対値が等しい場合の連立方程式を解くことができる。 ○加減法を理解し、それをを用いて連立方程式を解くことができる。 ○代入法を理解し、それをを用いて連立方程式を解くことができる。 ○かっこをふくむ連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。 ○係数に小数や分数をふくむ連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。 ○$A=B=C$の形をした連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。</p> <p>○具体的な問題の中の数量やその関係に着目し、連立方程式をつくることができる。 ○連立2元1次方程式を利用して問題を解決するときの手順を理解している。</p>	<p>○求めたい数量が2つある問題を、既習の1元1次方程式などを活用して解決することができる。 ○文字の係数の絶対値が等しい場合の連立方程式で、1つの文字を消去する方法を考え、説明することができる。 ○文字の係数の絶対値が等しくない場合の連立方程式で、1つの文字を消去する方法を考え、説明することができる。 ○一方の式を他方の式に代入し、文字を消去する方法を考え、説明することができる。 ○連立方程式の解き方を振り返って、加減法と代入法を統合的に捉えることができる。 ○いろいろな連立方程式を、既知の連立方程式になおして解く方法を考え、説明することができる。</p> <p>○連立2元1次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。 ○求めた解が問題に適しているかどうかを、問題の場面に戻って考え、説明することができる。</p>	<p>○1元1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、2元1次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ○連立2元1次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ○1元1次方程式と関連付けて、連立方程式を解く方法を考えようとしている。 ○いろいろな連立方程式を、既知の連立方程式になおして解く方法を考えようとしている。</p> <p>○連立2元1方程式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。 ○連立2元1方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、その手順を検討しようとしている。</p>
------------------------------------	-----------	---	---	---	---

<p>3章 関数を利用して問題を解決しよう [1次関数]</p>	<p>○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を調べ、一定の割合で変化していることを見いだす。 ○1次関数の意味を理解し、$y=ax+b$の式に表すことができる。 ○1次関数$y=ax+b$では、変化の割合は一定で、aに等しいことを理解する。 ○1次関数のグラフは、その式をみたす点の集合で、1つの直線であることを理解する。また、1次関数のグラフの切片の意味を理解する。 ○1次関数のグラフの傾きの意味を理解する。 ○1次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかくことができる。 ○グラフの傾きと切片を読み取って、1次関数の式を求めることができる。 ○グラフの傾きと通る1点から、1次関数の式を求めることができる。 ○グラフが通る2点から、1次関数の式を求めることができる。</p> <p>19</p> <p>○2元1次方程式のグラフは、その解を座標とする点の集合で、式を変形してできる1次関数のグラフになっていることを理解する。 ○2元1次方程式のグラフをかくことができる。また、2元1次方程式$ax+by=c$で、$a=0$や$b=0$の場合のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。 ○連立方程式の解が、2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標であることを理解し、連立方程式の解をグラフをかくて求めたり、2直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりすることができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決する方法を説明することができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決することができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。 ○図形の辺上を動く点によってできる図形の面積の変化を、1次関数の式やグラフで表すことができる。</p>	<p>○1次関数の意味を理解し、$y=ax+b$の式に表すことができる。 ○比例$y=ax$は、1次関数$y=ax+b$で$b=0$の特別な場合であることを理解している。 ○1次関数$y=ax+b$では、変化の割合は一定で、aに等しいことを理解している。 ○1次関数$y=ax+b$で、xの増加量からyの増加量を求めることができる。 ○具体的な事象において、1次関数の変化の割合が何を意味しているかを読み取ることができる。 ○1次関数のグラフは、その式をみたす点の集合で、1つの直線であることを理解している。 ○1次関数のグラフの切片の意味を理解している。 ○1次関数のグラフの傾きの意味を理解している。 ○1次関数の値の増減とグラフの特徴を理解している。 ○1次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかくことができる。 ○グラフの傾きと切片を読み取って、1次関数を求めることができる。 ○グラフの傾きと通る1点の座標から、1次関数の式を求めることができる。 ○グラフが通る2点の座標から、1次関数の式を求めることができる。</p> <p>○2元1次方程式のグラフは、その解を座標とする点の集合で、式を変形してできる1次関数のグラフになっていることを理解している。 ○2元1次方程式のグラフをかくことができる。 ○2元1次方程式$ax+by=c$で、$a=0$や$b=0$の場合のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。 ○連立方程式の解が、2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標であることを理解し、連立方程式の解をグラフをかくて求めたり、2直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりすることができる。 ○身のまわりには、2つの数量の間の関係を1次関数とみなして問題を解決できる場面があることを理解している。 ○1次関数のグラフを利用して問題を解決できることや、グラフのよさを理解している。 ○1次関数の関係を、変域ごとに式やグラフで表すことができる。</p>	<p>○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を調べ、一定の割合で変化していることを見いだし、表やグラフを用いて説明することができる。 ○1次関数の値の変化の特徴を見いだし、説明することができる。 ○1次関数のグラフの特徴を見いだし、説明することができる。 ○1次関数の表、式、グラフを、相互に関連付けて考え、説明することができる。</p> <p>○連立方程式の解の意味を、2つの2元1次方程式のグラフを用いて捉え、説明することができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決する方法を説明することができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決することができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を、変域によって場合分けをして考え、説明することができる。</p>	<p>○1次関数の必要性和意味を考えようとしている。 ○1次関数の値の変化の特徴を捉えようとしている。 ○比例のグラフと対比させて、1次関数のグラフの特徴を捉えようとしている。 ○1次関数の式を求める条件や求める方法を考えようとしている。</p> <p>○2元1次方程式や連立方程式の解の意味を、グラフを用いて捉えようとしている。 ○1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>
----------------------------------	--	--	--	--

<p>4章 図形の性質の調べ方を考えよう [平行と合同]</p>	<p>15</p>	<p>○多角形の内角の和の求め方を説明することができる。 ○n角形の内角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。 ○n角形の外角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。 ○対頂角の意味を理解し、対頂角は等しいことを、論理的に筋道を立てて説明することができる。 ○同位角、錯角の意味を理解し、平行線と錯角の関係を、論理的に筋道を立てて説明することができる。 ○三角形の内角の和が180°であることを、論理的に筋道を立てて説明することができる。 ○角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。</p> <p>○平面図形の合同の意味と合同な図形の性質を理解する。 ○三角形の合同条件を理解する。 ○2つの三角形が合同かどうかを、三角形の合同条件を使って判断することができる。 ○ことからの仮定と結論の意味を理解する。 ○根拠となることがらを明らかにして、簡単な図形の性質を証明することができる。</p>	<p>○多角形の内角、外角の意味を理解している。 ○多角形の内角の和の性質は、三角形の内角の和をもとにして見いだせることを理解している。 ○多角形の外角の和の性質は、多角形の内角の和をもとにして見いだせることを理解している。 ○対頂角の意味と性質を理解している。 ○同位角、錯角の意味を理解している。 ○平行線の性質、平行線になるための条件を理解している。 ○証明の意味を理解している。 ○三角形の内角、外角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 ○多角形の内角の和、外角の和の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。</p> <p>○平面図形の合同の意味と表し方を理解している。 ○合同な図形の性質を理解している。 ○三角形の合同条件を理解している。 ○三角形の合同条件を利用して、2つの三角形が合同かどうかを判断することができる。 ○ことからの仮定と結論の意味を理解している。 ○証明の進め方を理解している。 ○証明のためにかいた図は、すべての代表として示されていることを理解している。</p>	<p>○多角形の内角の和の求め方を説明することができる。 ○n角形の内角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。 ○n角形の外角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。 ○対頂角が等しいことを、論理的に筋道を立てて説明することができる。 ○平行線と錯角の関係を、論理的に筋道を立てて説明することができる。 ○三角形の内角の和が180°であることを、論理的に筋道を立てて説明することができる。 ○角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。</p> <p>○三角形の合同条件を、三角形の決定条件をもとにして考え、説明することができる。 ○証明の根拠となることがらを明らかにして、簡単な図形の性質を証明することができる。</p>	<p>○多角形の角についての性質の説明で、もとにしていることがらを考えようとしている。 ○証明の必要性和意味を考えようとしている。 ○平面図形の性質について学んだことを学習に生かそうとしている。</p> <p>○平面図形の合同の意味を考えようとしている。 ○三角形の合同条件を、三角形の決定条件をもとにして考えようとしている。 ○三角形の合同条件を学習に生かそうとしている。 ○証明の必要性和意味及びその方法を考えようとしている。</p>
----------------------------------	-----------	---	---	--	--

<p>5章 図形の性質を見つけて証明しよう [三角形と四角形]</p>	<p>○あたえられた手順で、いつでも直角ができる理由を考え、説明することができる。</p> <p>○二等辺三角形の底角の性質を証明することができる。</p> <p>○二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を見いだすことができる。また、正三角形の性質を証明することができる。</p> <p>○二等辺三角形になるための条件を論理的に確かめることができる。また、二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。</p> <p>○ことがらの逆と反例の意味を理解する。</p> <p>○直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考え、説明することができる。</p> <p>○直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明することができる。</p>	<p>○二等辺三角形の定義を理解している。</p> <p>○二等辺三角形の頂角、底辺、底角の意味を理解している。</p> <p>○二等辺三角形の底角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。</p> <p>○二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を理解している。</p> <p>○正三角形の定義と性質を理解している。</p> <p>○二等辺三角形になるための条件を理解している。</p> <p>○二等辺三角形になるための条件の証明において、辺や角の関係などを読みとることができる。</p> <p>○ことがらの逆と反例の意味を理解している。</p> <p>○直角三角形の合同条件を理解している。</p> <p>○直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明することができる。</p>	<p>○あたえられた手順で、いつでも直角ができる理由を考え、説明することができる。</p> <p>○二等辺三角形の底角の性質を証明することができる。</p> <p>○二等辺三角形の底角の性質の証明を読んで頂角の二等分線の性質を見だし、証明することができる。</p> <p>○正三角形の性質を証明することができる。</p> <p>○2つの角が等しい三角形の2辺は等しいことの証明について考察することができる。</p> <p>○二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。</p> <p>○直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考え、説明することができる。</p> <p>○証明を振り返って、新たな性質を見出すことができる。</p>	<p>○平面図形の性質について学んだことを生活に生かそうとしている。</p> <p>○二等辺三角形の性質を証明する方法を考えようとしている。</p> <p>○二等辺三角形になるための条件を証明する方法を考えようとしている。</p> <p>○直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考えようとしている。</p> <p>○直角三角形の合同条件を学習に生かそうとしている。</p>
<p>21</p>	<p>○平行四辺形の定義と性質を理解する。</p> <p>○平行四辺形の性質を証明することができる。</p> <p>○平行四辺形の性質を利用して、図形の性質を証明することができる。</p> <p>○具体的な事象を考察することを通して、平行四辺形になるための条件□2を証明することができる。</p> <p>○平行四辺形の性質の逆を証明することを通して、平行四辺形になるための条件□3、□4を見いだすことができる。</p> <p>○平行四辺形になるための条件□5を証明することができる。</p> <p>○平行四辺形になるための条件を利用して図形の性質を証明したり、その証明を振り返って統合的・発展的に考えたりすることができる。</p> <p>○長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解する。</p> <p>○長方形やひし形の対角線の性質を証明することができる。また、その性質の逆が正しくないことを、反例をあげて示すことができる。</p> <p>○既習の内容を活用して、図形の性質を見だし証明したり、問題の条件を変えて統合的・発展的に考えたりすることができる。</p> <p>○平行線の性質を利用して、図形を等積変形することができる。</p>	<p>○平行四辺形の定義と性質を理解している。</p> <p>○証明のためにかいた図は、すべての代表として示されていることを理解している。</p> <p>○平行四辺形になるための条件の証明において、辺や角の関係などを読みとることができる。</p> <p>○平行四辺形になるための条件を理解している。</p> <p>○長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解している。</p> <p>○長方形やひし形の対角線の性質を理解している。</p> <p>○底辺が同じで高さが等しい三角形の面積は等しいことを理解している。</p> <p>○平行線の性質を利用して、図形を等積変形することができる。</p>	<p>○平行四辺形の性質を証明することができる。</p> <p>○平行四辺形の性質を利用して、図形の性質を証明することができる。</p> <p>○具体的な事象を考察することを通して、平行四辺形になるための条件□2を証明することができる。</p> <p>○平行四辺形の性質の逆を証明することを通して、平行四辺形になるための条件□3、□4を見いだすことができる。</p> <p>○平行四辺形になるための条件□5を証明することができる。</p> <p>○平行四辺形になるための条件を利用して図形の性質を証明したり、その証明を振り返って統合的・発展的に考えたりすることができる。</p> <p>○長方形、ひし形、正方形の定義をもとにして、それらが平行四辺形であることを証明することができる。</p> <p>○長方形やひし形の対角線の性質を証明することができる。</p> <p>○長方形やひし形の対角線の性質の逆が正しくないことを、反例をあげて証明することができる。</p> <p>○既習を活用して、図形の性質を見だし証明したり、統合的・発展的に考えたりすることができる。</p> <p>○平行線の性質を利用して、図形を等積変形する方法を考え、説明することができる。</p>	<p>○平行四辺形の性質を証明する方法を考えようとしている。</p> <p>○平行四辺形の性質を学習に生かそうとしている。</p> <p>○平行四辺形になるための条件を証明する方法を考えようとしている。</p> <p>○平行四辺形になるための条件を学習に生かそうとしている。</p> <p>○長方形、ひし形、正方形と平行四辺形との相互関係を捉えようとしている。</p> <p>○平面図形の性質や図形の合同について学んだことを学習に生かそうとしている。</p> <p>○平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p> <p>○平行線の性質を学習に生かそうとしている。</p>

<p>6章 起こりやすさをとらえて説明しよう [確率]</p>	<p>9</p>	<p>○多数回の実験の結果をもとにして、あたりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。 ○多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性と意味及び確率の求め方を理解する。 ○起こりうる場合を、樹形図や表を使って全部あげ、確率を求めることができる。 ○起こりうる場合の組み合わせを考えて、確率を求めることができる。また、起こりうる場合を2次元の表に整理し、確率を求めることができる。 ○あることからの起こらない確率の求め方を理解し、その確率を求めることができる。 ○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。 ○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。</p>	<p>○多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性と意味及び確率の求め方を理解している。 ○確率pの値の範囲が、$0 \leq p \leq 1$であることを理解している。 ○起こりうる場合を、樹形図や表を使って全部あげ、確率を求めることができる。 ○起こりうる場合の組み合わせを考えて、確率を求めることができる。 ○起こりうる場合を2次元の表に整理し、確率を求めることができる。 ○あることからの起こらない確率の求め方を理解し、その確率を求めることができる。</p>	<p>○多数回の実験の結果をもとにして、あたりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。 ○実験によらずに確率を求める方法を、場合の数に着目して考え、説明することができる。 ○同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考え、説明することができる。 ○あることからの起こらない確率を、場合の数について成り立つ関係に着目して考え、説明することができる。 ○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。 ○同様に確からしいことに着目し、起こりうる場合の数え方の誤りを指摘することができる。 ○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。</p>	<p>○場合の数をもとにして得られる確率の必要性と意味を考えようとしている。 ○同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考えようとしている。 ○不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>
<p>7章 データを比較して判断しよう [データの比較]</p>	<p>5</p>	<p>○複数のデータの分布の傾向を比較するとき、ヒストグラムでは比較しにくいことを知る。 ○箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し、データを整理して箱ひげ図に表すことができる。また、箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解する。 ○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。</p>	<p>○箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し、データを整理して箱ひげ図に表すことができる。 ○箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解している。 ○箱ひげ図とヒストグラムの対応を理解している。 ○箱ひげ図と四分位範囲の必要性を理解している。</p>	<p>○2つのヒストグラムから、データの分布の傾向を比較して読み取り、説明することができる。 ○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。</p>	<p>○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を考えようとしている。 ○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>
<p>予備時間</p>	<p>9</p>				